

「総合事業」で急成長し、農業融資にも参入したイオン銀行

主任研究員 重頭ユカリ

1 はじめに

イオン銀行は、「商業と金融が融合した小売業の銀行」として、2007年10月に開業した。同行は、イオングループのスーパーマーケット等に来店する人が気軽に立ち寄れる銀行を目指しているため、店舗のほとんどはイオンやイオンモールの中に設置されている。

国内では、2000年以降にインターネット専業銀行や商業施設との連携を主体とする銀行等「新たな形態の銀行」の設立が進展したが、それらの銀行のうち有人店舗中心に営業を行っているのはイオン銀行のみである。同行の店舗は、郊外に多いこと、グループ内でスーパーをはじめとする様々な事業と金融業を営むという総合事業性があることなど、農協との共通点も多いと考えられる。

2 6年で地銀下位行並みの預金残高に

イオン銀行の預貸金残高等の推移をみたのが、第1表である。開業初年度末の08年3月末には、口座数は28万口座であったが、13年3月末には306万口座に増えている。預金残高は、同期間に1,529億円から1兆2,201億円に増加したが、この残高規模は、地銀下位行並みの水準である。

貸出金も、前年比50%以上の増加が続いており、13年3月末の残高は7,024億円となった。貸出金の用途は示されていないが、個人向け、長期貸出が大宗を占めることから、多くは住宅ローンであるとみられる。

同行の住宅ローンは、金利の競争力が高く、保証料が無料で、一部繰

上返済や金利変更にかかる手数料も無料である。さらに、借入金額1,000万円、かつ借入期間10年以上の人が、イオンセレクトクラブに入会すると、専用のクレジットカードが発行され、イオンやマックスバリュ等におけるカード決済で、5年間毎日5%の割引を受けられるという特典がある。割引はカード代金の請求時に行われ、割引の対象上限額は、住宅ローンの借入金額が2,000万円以上の場合は年間90万円、1,000～2,000万円までの場合は45万円である。

インターネットでの借入者の口コミをみると、この特典は、普段から買い物でイオンを利用している主婦層に特に好評であるとみられる。また、住宅ローン等の商品の申込みをインターネットだけでなく、実際の店舗で夜間や休日にも受け付けていることが、利用者の安心感につながっているようである。

3 スーパー、クレジットカードとの連携

前述のイオンセレクトクラブの特典にもみられるとおり、イオン銀行ではスーパーやク

第1表 イオン銀行の預貸金残高・店舗、ATM数

		口座数 (万口座)	預金残高 (億円)	貸出金残高 (億円)	店舗数 (店)	ATM数 (台)
実数	08年3月	28	1,529	4	21	1,175
	09. 3	75	3,345	852	59	1,532
	10. 3	143	6,372	1,815	67	1,641
	11. 3	203	9,201	2,919	75	1,825
	12. 3	258	11,167	4,640	83	1,951
	13. 3	306	12,201	7,024	117	2,680
増前 加年 率比 (%)	09. 3	167.9	118.8	20,227.2	181.0	30.4
	10. 3	90.7	90.5	113.1	13.6	7.1
	11. 3	42.0	44.4	60.8	11.9	11.2
	12. 3	27.1	21.4	59.0	10.7	6.9
	13. 3	18.6	9.3	51.4	41.0	37.4

資料 イオン銀行ディスクロージャー誌各年版から作成

レジットカード、電子マネーと連携した商品設計が目立つ。

例えば、銀行のカード機能、クレジットカード機能、電子マネー機能を有した「イオンカードセレクト」の保有者向けに、通常の普通預金金利0.02%に0.1%上乗せした0.12%を付与している(14年2月7日まで)。

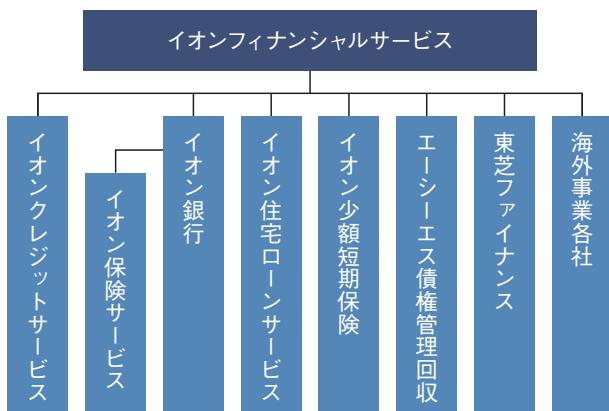
毎月20日、30日のお客様感謝デーには、イオンのクレジットカードか銀行カードの提示、または電子マネーWAONでの支払いで、イオン等での買い物代金が5%割引になる。また、5日、15日、25日に買い物代金をWAONで支払うと、通常は200円で1WAONポイントが付与されるところ、2倍の2WAONポイントが付与される。

イオン銀行では、取引状況に応じてポイントを付与する「イオン銀行ポイントクラブ」を11年12月より導入しているが、ポイントの還元はWAONポイントで行われる。また、キャンペーンとして、同行を新規に給振口座として指定すると1,000WAONポイントをプレゼントしている(13年12月末まで)。

つまり、イオン銀行の利用者は、クレジットカードを保有し、イオン等で買い物をすると、預金金利の上乗せや買い物代金の割引、電子マネーでの還元等の様々な特典を受けられる。同行の各種キャンペーンではWAONポイントをプレゼントすることが多いが、利用者には、いつも買い物をしているスーパーでの支払いに使えるのでお得感を実感しやすいと考えられる。イオン銀行の預貸金急増には、同行の預貸金金利の競争力もさることながら、発行枚数の多いクレジットカード、国内最大手のスーパーであるイオンと連携したメリットの訴求も大きく寄与していると考えられる。

(注)WAONポイントは電子マネーWAONに交換すれば1ポイント1円で利用可能。

第1図 イオンフィナンシャルサービスの組織体制



資料 イオンフィナンシャルサービス株式会社「2012年度決算説明会資料」から作成

4 さらなる相乗効果をめざした組織再編

13年4月1日に、イオンクレジットサービスは銀行持株会社イオンフィナンシャルサービスとなり、イオン銀行を完全子会社化した。新しいイオンクレジットサービスはクレジットカードのプロセッシングや電子マネー事業を担うが、クレジットカードの発行自体はイオン銀行が行うこととなった(第1図)。

これにより、クレジットカード事業が貸金業法の対象から外れるとともに、クレジットカード申込みの際に得た情報と、店頭での購買情報や銀行で保有する金融資産情報を合わせて分析することも可能になった。組織再編の目的は、事業間の相乗効果を強めることであり、イオン銀行は、今後もスーパー等と連携した商品を積極的に提供するとみられる。

また、イオンフィナンシャルサービスは、4月に東芝ファイナンスを子会社化し、ソーラーシステムや農機具等の販売時の個品割賦や提携ローンを拡大することを目指している。7月からはイオン銀行が日本政策金融公庫との提携により農業者向けに「イオン銀行アグリローン」の提供を開始しており、今後は農業分野でも積極的な業務展開が行われる可能性がある。

(しげとう ゆかり)